

山口県内の博物館紹介 vol.14

萩市立須佐歴史民俗資料館

萩市立須佐歴史民俗資料館は、昭和 62 年 11 月に開館しました。資料館は本館と隣接する別館（旧益田家屋）から構成されており、展示室では、旧須佐町内の歴史・民俗に関する資料が数多く展示されています。

このほか、約 2 年に一度企画展が開催されており、昨年度の入館者は約 1400 人を数えるそうです。今回は、萩市須佐総合事務所地域振興の担当職員から館の展示や特色についてお話をうかがいました。

（質問）歴史民俗資料館の展示の特色は何ですか？

「展示の主な柱は二つあります。一つは萩藩の永代家老を務め、今日の須佐の基礎を築いた益田家に関わる資料で、文書や肖像画などの資料を展示しています。二つめは江戸時代初期に開窯されたと推測され、国産としては最古級の青磁を生産していたことで知られる須佐唐津焼に関わる資料で、窯跡出土品をはじめ、伝世品、製陶用具などを展示しています。このほか、別館では町内の住民から寄贈していただいた農具・漁具・紙すき機などの民俗資料を展示しています。」

（質問）毎年 10 月に行われている幕末体験「育英塾」は大変面白い企画ですね。

「須佐には享保 20 年（1734）頃に益田家 27 代・益田元道が開設した郷校「育英館」がありました。幕末体験「育英塾」は、須佐地域の小学校 6 年生を対象に須佐の歴史や書道、剣術の講義・実技を通して、幕末の志士たちの意気込みを学習するもので、子供たちにも大変好評です。」

このほか、歴史民俗資料館の周辺には、益田家に関わる旧跡・神社・墓所や昭和前半に逋信大臣・衆議院議員であった久原房之助の顕彰碑などがあり、歩いて散策することができます。歴史民俗資料館と合わせて萩市須佐へ是非足をお運びください！

（田畑直彦）



萩市立須佐歴史民俗資料館外観



展示内容を説明する職員

お問い合わせ先
萩市立須佐歴史民俗資料館
〒759-3411
萩市須佐 4441-10
Tel 08387-6-3916



2008 年 春 埋蔵文化財資料館の活動

- 7 月** 7/1（火）～7/10（木）
吉田構内経済学部（吉田遺跡）予備発掘調査を実施。
7/5（土）七夕祭（学生寮祭）イベントとして企画展示
『KANGA ～吉田キャンパスに眠る官衙～』を開催。
7/7（火）第 9 回大学情報機構埋蔵文化財特別展（於：山口大学総合図書館 1 階）
『あしもの遺跡シリーズ 6 山口大学医学部構内遺跡』オープン。
7/9（水）～7/11（金）
小串構内総合研究棟（山口大学医学部構内遺跡）にて予備発掘調査を実施。
7/14（月）第 25 回企画展『ロマン発見～考古学者の筆～』オープン。
第 8 回大学情報機構埋蔵文化財特別展（於：山口大学総合図書館 1 階）
『あしもの遺跡シリーズ 5 中近世の吉田遺跡』オープン。
7/19（土）

- 8 月** 8/20（水）吉田構内国際交流会館（吉田遺跡）にて立会調査を実施。
8/26（火）～8/27（水）
山口市立平川中学校生徒 2 名の職場体験学習を受け入れ。



七夕祭での展示風景



第 8 回公開授業（草取り）の様様

編集・発行

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信
第 14 号

『てらこや埋文』2008 秋

山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1
【Tel/Fax】083-933-5035
【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp
【HP】http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp
/~yuam-w/Shiryoukan.home/

発行年月日 2008. 10. 31.

季刊 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第14号

Elementary Archaeological Report

てらこや埋文

2008 年

秋



地域とともに！ 埋蔵文化財資料館

地域に生かされる資料館

山口大学埋蔵文化財資料館では、これまでも展示や公開授業、ホームページでの情報発信など、当館所蔵の学術資産や研究成果を広く社会に還元する活動を積極的に行ってきました。しかしながら、大学の地域開放・社会貢献が求められる昨今の状況に呼応するように、当館にも地域から新たな要望が寄せられています。ここでは、本年度に実施した「新たな地域連携」をいくつかご紹介します。

職場体験学習の受け入れ

8 月 26 日・27 日の二日間、山口市立平川中学校の生徒 2 名が当館にて職場体験学習を行いました。初日は埋蔵文化財の調査方法や考古学の方法論を学び、午後から（財）山口県埋蔵文化財センターの協力により、現在調査を行っている『朝田墳墓群』の発掘調査に参加しました。厳しい日差しの中での作業でしたが、2 名とも「遺跡の発掘」という初めての体験を楽しんでいるようでした。二日目は、室内作業の体験です。埋蔵文化財の仕事では、室内での様々な精密作業が必要となります。今回は、「土器の復元作業」に挑戦してもらいました。この作業は丁寧に根気よく行う必要がありますが、2 名とも集中して作業に取り組んでいました。

今回の取り組みは、受け入れた中学生 2 名同様、当館としても初の試みであり、様々な反省点もありました。今後同様の要望があればさらに充実したプログラムを実施しようと考えています。

NPO 法人との共催イベント

当館は今年 1 月に NPO 法人「子どもとともに山口県の文化を育てる会」との共催で「土器焼きイベント」を実施しました。その成果展として、9 月 8 日～19 日の期間、山口県庁ロビーにて「心をかたちに子どもたちの粘土の未来～『野焼き体験・古代人に挑戦』」を開催しました。展示会場には、1 月に焼いた作品と、その後参加校が独自に制作した作品が並べられました。設営終了後、会場全体を見渡すと…子どもたちの楽しい気持ちや真剣なまなざしが見事に表現されていました。私たちが日頃行っている文化財展示では、学術色が強いいためか、観覧いただいた方々からは「勉強になった」「歴史に興味があった」という感想は聞かれるのですが、「楽しかった」という声はあまり聞かれない気がします。これは表現者の「楽しい気持ち」を伝えきっていないということなのでしょう。今回のイベント協力は「アートと文化財」という当館初の試みとなりました。当初は「子どもたちの作品の邪魔にならなければ良いが…」と考えていましたが、当館の「心」も多少なりとも表現できたのではないかと感じています。

考古学研究団体への施設開放・技術協力

郷土の考古学研究団体「山口考古学フォーラム」の要望を受け、当館展示室を開放し、研究成果展を開催します。また当館は共催機関として施設開放のみならずポスター・パネルデザイン、模型製作、文化財の取り扱い方法などにも当館の知識と技術を提供します。

当館では、今後も考古学研究や教育活動に関連する企画であれば積極的に施設開放と技術提供を行います。まずは気軽に声をおかけください。（横山成己）

山口考古学フォーラム第 1 回巡回展示

やまぐち復元 ～古墳時代の食卓～

開催場所：埋蔵文化財資料館 展示室
開催期間：平成 20 年 11 月 1 日（土）～11 月 28 日（金）
開館時間：午前 9 時～午後 5 時
休館日：土・日曜日、祝祭日（ただし 11 月 1 日は開館）
入館料：無料





資料館この一品 vol.13

吉田キャンパス大学会館敷地の発掘調査

山口大学の中心部は遺跡の中心部！

第2学生食堂（きらら）から遺跡保存公園、大学会館敷地・大学本部周辺は姫山から西に延びた小高い丘陵になっています。この地域一帯ではこれまでの埋蔵文化財資料館による発掘調査で、縄文時代から近世の遺物が大量に見つかっています。また、弥生時代・古墳時代の竪穴住居跡や平安時代の掘立柱建物、室町時代・江戸時代の井戸や屋敷跡など各時代に及ぶ様々な遺構が見つかっており、吉田遺跡の中心部であったといえるでしょう。そして奇しくも現在、大学本部や大学会館など山口大学の中枢を担う建物が建ち並んでいるのです。

大学会館敷地の発掘調査

大学会館敷地（約2000㎡）では、昭和58年（1983）9月から12月末までの約4ヶ月発掘調査が行われました。その結果、敷地内には一段高い遺跡保存公園周辺から流れ込んだ遺物包含層が厚く堆積しており、縄文時代から近世の遺物が大量に出土しました。また、遺物包含層の下からは掘立柱建物跡や柱穴、古墳時代から近世にかけての井戸跡が見つかりました。井戸跡は後世に上部が削平されたため、底の部分だけが残っている状態でした。

出土遺物には一般の集落跡からはあまり見られないものがあり、注目されます。奈良時代から平安時代にかけてのものでは、官人が用いたベルトの飾りである石帯や税として納めるものの付札として使われた木簡、祭祀に使われたと考えられる緑釉陶器が見つかっています。また、須恵器の硯や以前ご紹介した「富」が書かれた須恵器も大学会館の敷地から見つかった貴重な遺物です。このほか、平安時代後半から鎌倉時代にかけてのものでは、中国からの輸入陶磁器（白磁・青磁）の破片が大量に見つかっています。

以上から第2学生食堂から遺跡保存公園、大学会館敷地・大学本部周辺には、古代から中世にかけて何らかの役所のような施設が存在した可能性が高く、一般庶民が暮らす集落ではなかったようです。具体的にどのような施設が存在したのか、今後の発掘調査による解明が期待されます。なお、この地域から出土した遺物については、今後詳しく紹介する予定です。どうぞご期待ください。

（田畑直彦）



大学会館敷地発掘調査区全景（南東から）



大学会館敷地発掘調査風景（東から）



古墳時代の井戸



大学会館敷地出土青磁（龍泉窯系）



土器工房まいぶん vol. 2

粘土を低温で焼いてつくられた古代の食器や調理具を、私たちは「土器」と呼んでいます。遺跡の発掘調査で一番多く出土するのが、この「土器」と呼ばれる古代人の道具です。つまり、土器は古代の人々の「生活必需品」だったのです。それでは、土器はどのような方法でつくられていたのでしょうか？ このコーナーでは弥生時代の土器づくりの方法を紹介していきます。

弥生土器のつくりかた その2

①粘土紐をつくる



底部をつくった後、太めの粘土紐をつくります。

②筒状に積み上げる



片手に持った粘土を、もう片方の手のひらの付け根に押し当てながら手前に動かします。

③形をつくる（底～胸部）



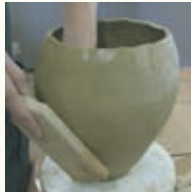
内側に当て具をあて、板で叩きながら形をつくります。

④内向きに積み上げる



ほどよく固まったら再び粘土を積み上げます。

⑤全体の形をつくる



③と同様に叩きながら形をつくります。

⑥完成



口縁をつくり、表面を板で整えて完成です。

前回との違いにお気づきになりましたか？
今回の方法だと②の作業がより効率よく進み、さらに粘土を叩き締める事によって、薄くて軽量、かつ丈夫な土器をつくることができます。
次回は土器焼成の方法をご紹介します！

（乃美友香）



喫茶まいぶん Vol. 6

このコーナーでは、山口県内にある遺跡公園を紹介します。この度ご紹介するのは、萩市にある江戸時代の鋳物鋳造跡です。平成12年から13年にかけて行われた2度の発掘調査の成果を受けて、平成16年に遺跡公園として復元されました。

ぐんじちゅうぞうしよ

郡司鋳造所跡

発掘調査で炉跡や窯跡、鍋や梵鐘の鋳型、フイゴやルツボ等の鋳造道具が見つかったことから、ここには江戸時代を通して鋳物工房が営まれていたことが判明しました。また、西洋式の大砲の鋳型も発見されており、幕末には萩藩の軍事力を支える工房であったようです。こうした発見は稀なため、郡司鋳造所跡は江戸時代の鋳物工房の様子とその変遷を示す貴重な遺跡と言えます。



遺跡公園周辺の地図



遺跡公園の風景



西洋式大砲の鋳造遺構（復元）

当遺跡公園は松陰神社入り口付近（萩市椿東2680）にあり、JR東萩駅から徒歩10分程の距離です。復元された西洋式大砲の鋳造遺構とその解説パネルが設置されており、幕末に導入されていく西洋の新技術に触れながら学ぶことができます。遺跡公園自体は落ち着いた雰囲気ですが、復元された鋳造遺構の前に立つと、幕末の衝撃の足音が今にも聞こえてきそうです。

（藤野好博）